

## 6 - 14 富山湾付近の海底地形

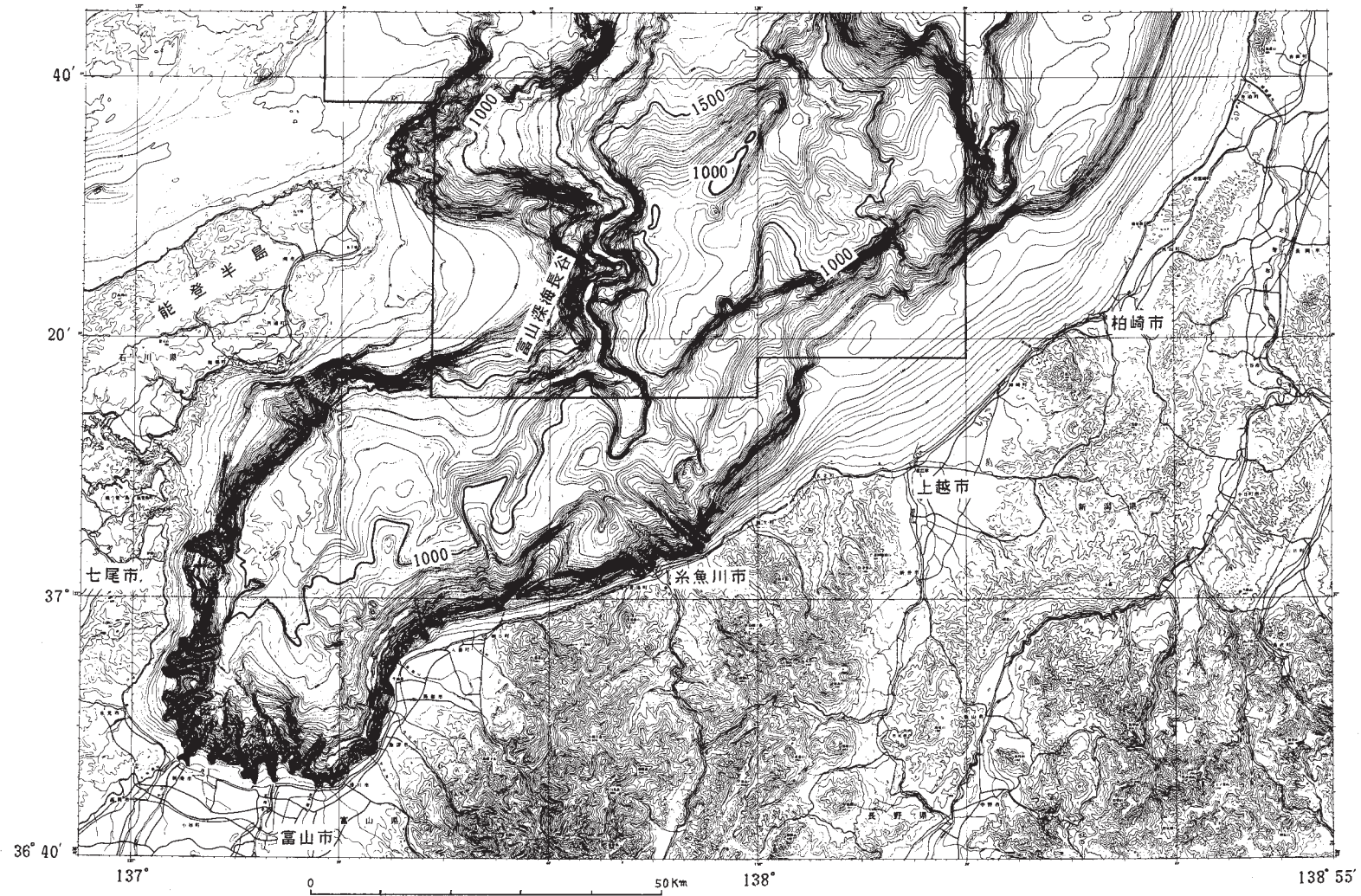
### Submarine Topography in the Vicinity of Toyama Bay

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

海上保安庁水路部は、昭和 62 年 9 - 10 月に科学技術振興調整費による「中部日本活構造地域の地震テクトニクスに関する研究」の一環として、富山湾付近において海底地形等の調査を行った。調査は測量船「拓洋」によるもので、シービームによる精密海底地形、地磁気及び重力の測量を行った。測線方向は南北方向に設定し、測線間隔は約 1500m とした。シービーム調査区域外では既存データをコンパイルして縮尺 1 / 20 万の海底地形図を作成した。今回は、これらにより明らかになった富山湾付近の海底地形（第 1 図）について報告する。

富山湾深海長谷は全体としてはさほど深くない谷だが、本調査海域では比高最大 400m に及ぶ V 字形の谷となっている。この付近でトラフ自体も幅が狭くなっていることから、深海長谷は佐渡 - 能登の隆起大陸棚を穿つ先行谷と考えられる。水深 140m 付近に明瞭な平坦面があり陸棚を形成している。しかし神通川から糸魚川にかけての沿岸部には陸棚はほとんど見られない。深海長谷の東側には何段かのステップ（平坦面）が見られる。ステップは北東 - 南西あるいは東北東 - 西南西方向の斜面で分けられている。



第1図 富山湾付近海底地形図

等深線間隔：200m 以浅は 10m, 200m 以深は 20m. 原図は、縮尺 1 / 20 万。

Fig. 1 Bathymetric chart in the vicinity of Toyama Bay.  
 Contour interval: 10 m(shallower than 200 m.)  
 20 m(deeper than 200 m.)  
 Original chart scale is 1 : 200,000.